

ねん がつ にち
2021年9月18日
ねんかんたい しゅじつ
年間第25主日

きくち いざおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

かれ ことば しんじつ み かみ さか もの ことば ちえ しょ しる
「彼の言葉が真実かどうか見てやろう」という「神に逆らう者」の言葉が、知恵の書には記
されています。神に従い真実を追究する者の生き方は、この世が良しとする価値観に基
づいた生き方と真っ向から対立することが、そこには記されています。

し と り こしん こんらん わる おこな みなもと してき
使徒ヤコブは、ねたみや利己心が、混乱やあらゆる悪い行いの 源 であると指摘します。
ただ どうき かみ したが しんじつ ついきゅう もの い かた よ よ かちかん もと
正しい動機、すなわち神が与える知恵に基づく価値観によらない限り、平和は実現せず、
いのちを奪うような混乱が支配すると、使徒は指摘します。

ふくいん だれ いちばんえら ぎろん でし たい ことば しる
マルコ福音は、誰が一番偉いのかと議論する弟子たちに対するイエスの言葉を記してい
ます。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者とな
りなさい」というイエスの言葉は、弟子たちに対する回答と言うよりも、この世への警句
であります。神が良しとされる価値観は、弟子たちが捕らわれているような、この世の
かちかん まった こと い さと ことば じゆなん し
価値観とは全く異なっているのだと言うことを悟らせようとする言葉です。受難と死へ
いた しょうがい にんげん じょうしき こ じんせい
と至るイエスの生涯そのものが、人間の常識をはるかに超えた人生です。

じんせい みずか そうぞう じんるい あい ぐげん か あたま
その人生にこそ、自らが創造された人類への愛とつくしみが具現化していると 頭で
りかい しんじょうてき すなお とお みと むずか
理解はしても、心情的にそれを素直にその通りだと認めることは難しい。もっとほか
ほうほう おも かみ じょうしき にんげん い ぎら
の方法があるだろうと 思ってしまいます。しかし神の常識は、人間がもっとも忌み嫌う、
くる し けつ か かみ あい よ じょうしきてき
苦しみと死の結果にこそ、神の愛とつくしみがあるとするのです。この世が常識的だ
かちかん しんこう りかい かみ あい
とする価値観で信仰を理解しようとするとき、わたしたちは神の愛とつくしみを、そ
こころ りかい もの とど しんこう じょうしき こ
してその心を、理解できない者で留まってしまいます。信仰は、常識をはるかに超え
たところにあります。

にほん あす がつ はつ か けいろう ひ ともな きょう しゅじつ とく
日本では明日9月20日が、敬老の日とされています。それに伴って、今日の主日を、特
こうれい かたがた しゆくふく いの ひ きょうかい おお
に高齢の方々のために 祝福を祈る日としている教会も多いのではないのでしょうか。

きょうこうさま ことし がつ さいご しゅじつ そ ふ ぼ こうれいしゃ せ かい き がん び さだ
教皇様は今年から、7月の最後の主日を、「祖父母と高齢者のための世界祈願日」と定め
ておられます。この機会に、そう定められた教皇様の意向を振り返ってみたいと思いま
す。

きょうこうさま き がん び む しる
教皇様はこの祈願日に向けたメッセージにこう記しておられます。

「わたしたちの孤独は、主にとってどうでもよいことではありません。イエスの祖父で
ある聖ヨアキムも、子どもがいなかったために共同体から孤立していたと伝えられてい
ます。彼の人生は、妻アンナ同様、無益なものとみなされていました。けれども主は天使
を遣わして彼を慰めました」

う え きょうこうさま すう げつ なに ま くら おも
その上で教皇様は、「このパンデミックの数か月のように、何もかも真っ暗に思えると
きでも、主は天使を遣わし、わたしたちの孤独を慰め続け、『わたしはいつもあなたと
ともにいる』と繰り返しておられます」と述べておられます。

しゅ と も ひ と り ねんれい かんけい し めい
そして、主が共にいてくださるわたしたち一人ひとりには、年齢に関係なく、使命があ
るのだとして、こう記します。

「いくつであろうと、仕事を続けていようがいまいが、一人暮らしだろうが家族と一緒に
だろうが、若くして孫をもとうが老齢になってであろうが、自立できていようが支援が
必要だろうが、関係ありません。福音を伝える務め、孫たちに伝統を伝える務めに定年
などないのです」

しゃかい じょうしき ねんれい ひ と やくわり うしな しゃかい ちゅうしん はな とうぜん
社会の常識は、年齢とともに人は役割を失い、社会の中心から離れていくことを当然
としています。しかし、福音に生き、福音をあかす生活には、定年はありません。
どこにいても、どんな状況でも、この世に立ち向かう主の福音をあかす業を続け
てまいりましょう。